

# 支援者サポート 態勢づくり重要

## 琉球病院医師ら報告

金武

東日本大震災の被災者の心のケアに当たるため、被災地の岩手県宮古市を支援する国立病院機構琉球病院(村上優院長)は26日、金武町の同



東日本大震災の被災地での支援活動について報告した医師ら  
—金武町・琉球病院

病院でセミナーを開き、現地に派遣された医師らが支援活動について報告した。

同病院は、3月下旬から精神科医、臨床心理士、看護師らを被災地に派遣。熊本県の菊池病院との混成チームで、避難住民のメンタルヘルスに当たっている。

セミナーでは、精神科医の大鶴卓医師が宮古市での活動について講演。約2カ月間の現地状況の変化や課題について挙げた。現場では他職種複数人のチーム構成が有効だったと報告。今後の支援の在り方として「中長期的な心のケアが必要で、地元で従事する支援者の安心感を確保するためのサポートが重要だ」と述べた。

心理療法士の野村れいかさんは、子どものケアについて報告。避難所の子どもと遊びを通して関わったほか保護者と面談した。「親に子どもへ



の具体的な対応について助言し、周囲の大人の話を聴くことも大切」と指摘した。

そのほか、現地に派遣された作業療法士や看護師が状況の支えがあつてこそ、活動がスムーズに行えた」など感想を述べた。

同病院は6月にも、第6陣となる医師らを派遣する。